

文化・芸術

水をイメージしたインスタレーションの中にフィギュアを展示

守亜 (1975年)

荒木刺身 (1996年)

「動物造形作家」の守亜さんは、いわゆるフィギュアづくりのアーティストです。小動物、爬虫(はちゅう)類、怪獣、古代魚まで、なんでも作ってしまいます。しかも、小さくても実に精巧で、そのリアリティーに驚かされます。今回の展覧会では、自然をテーマにしたインスタレーションを制作、そこかしこに小さな作品が数百もひそんでいます。木、森、水、岩、闇という五つのテーマで、鮮やかな色彩におおわれたキャンバスと木材で立体が作られています。ちょうど五つの島に、それぞれのテーマに合うフィギュアたちが生息しているかっこうです。

再現的な要素の強いジオラマとはちがって、このインスタレーションの立体物が、抽象的で生命感あふれるエネルギーを発しています。守亜さんとそのパートナーで絵画を学んだ荒木さんの合作ですが、怪しげで独特の雰囲気があるのでぜひ探検してください。

(田中)



〈名画の扉〉

大川美術館「桐生のアーティスト
2021 Kiryu POP」から